

長野県の馬具副葬古墳について

—科野古代馬匹文化研究のための一作業—
(1)

塩 入 秀 敏

1 はじめに

『長野県史 考古資料編 第一巻(一) 遺跡地名表』(以下『県史』という)によると、長野県には判明しているだけで3531基の古墳がある(あった)。そのうち、どんな形にしろ何らかの副葬品を出土した古墳は968基である。そして、馬具を出土している古墳はそのうちの240基⁽²⁾で、これは群を抜いて全国で最も多い。これに次ぐのは静岡県⁽³⁾の約140基、福岡県の約100基、以下50基前後の岡山・奈良・愛知・群馬・栃木の各県が続いているが、これらを見ても長野県の突出している状況がよくわかる。全国では1200基ほどと考えられているので、約20パーセント、5基に1基は長野県にあることになる。

長野県に馬具副葬古墳が多いことは早くから知られていたことで、その理由についても馬匹生産と結び付けるいくつかの論考がある。しかし、数量的な把握はなされたことはなく、あくまで概念的な漠然としたものであった。⁽⁴⁾近年になって、松尾昌彦氏らの一連の研究や、岡安光彦氏の研究などにより、ようやく科野における馬具の編年や移動、あるいは馬具副葬古墳の分布状況などがかなり明らかにされ、それにより多くのことが解明されつつある。けれども、最も基本的な資料となる馬具副葬古墳の地名表が示されたことはない。市町村誌(史)の編纂刊行は近頃とみに盛んで、考古学的分野についても最新の成果に基づいた詳細な記述が多いが、それらの全てにわたり目を通すことは一大作業であるので、依然として『県史』によっているのが実情であろう。そこで、科野古代馬匹文化研究のための基本的資料として作成したのが表—3の長野県馬具副葬古墳地名表(以下、地名表という)である。

小考では、この地名表を作成するための資料を収集し整理する中で思いついたいくつかのことについて若干の考察を加えてみたい。

2 馬具副葬古墳の分布、空間的特徴

馬具を副葬する古墳は地名表の通りだが、これを見てすぐ気付くように絶対数の上では著しい偏在性がある。これを古墳全体の中でみてみたのが表—1である。理解のために、地域別に全古墳数・遺物を出土した古墳数・馬具副葬古墳数と、特に馬具の集中する市町村別に馬具副葬古墳数をあげて、その比率を比べてみた。けれども、古墳総数はともかく、遺物を出土したか否か、馬具を副葬していたか否かについては、可能な限り集成に努めたとはいっても当然遺漏はあろうし、また盗掘や破壊などによる場合は記録されることがないのであくまで目安であ

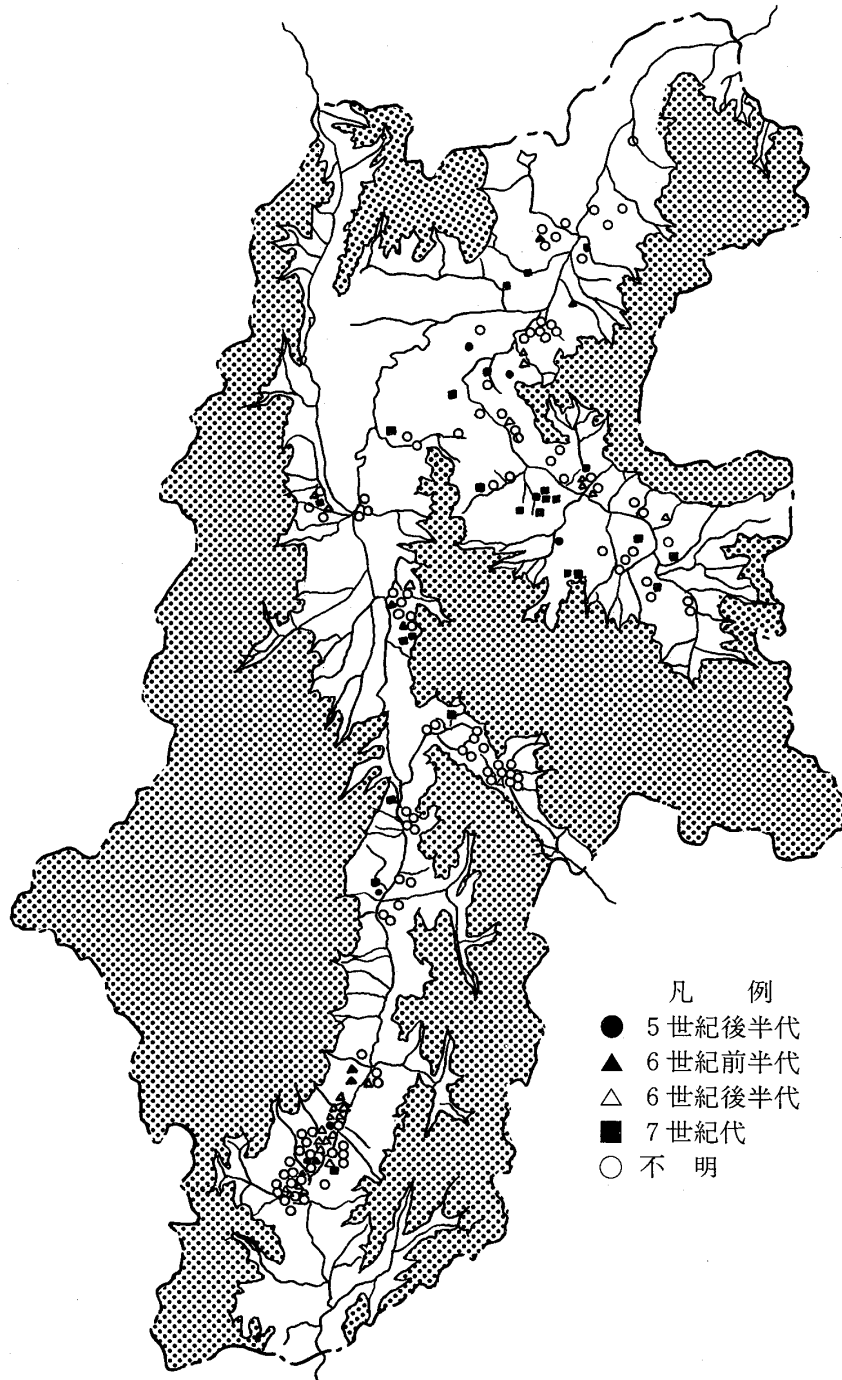
表一 長野県の遺物出土古墳数・馬具副葬古墳数地域別一覧表

地域		全古墳数 (a)	遺物出土古墳数 (b)	馬具副葬古墳数 (c)	市町村別数
北	飯水須高	275 (7.8)	40 (4.1)	9 (3.8)	中野市 2 小布施町 3 須坂市 2 その他 2
	長水	880 (24.9)	127 (13.1)	23 (9.6)	長野市 23
信	更埴	255 (7.2)	57 (5.9)	11 (4.6)	更埴市 4 坂城町 6 その他 1
	小計	1410 (39.9)	224 (23.1) [15.9]	43 (18.0) [19.2]	
東	上小	241 (6.8)	58 (6.0)	24 (10.0)	東部町 7 上田市 13 その他 3
	佐久	513 (14.5)	91 (9.4)	28 (11.7)	望月町 4 浅科村 3 小諸市 10 佐久市 9 その他 2
信	小計	754 (21.3)	149 (15.4) [19.8]	52 (21.7) [34.9]	
中	松筑安曇	351 (10.0)	106 (11.0)	32 (13.3)	穂高町 9 松本市 12 その他 11
	小計	351 (10.0)	106 (11.0) [30.2]	32 (13.3) [30.2]	
南	諏訪	141 (4.0)	82 (8.5)	23 (9.5)	岡谷市 6 諏訪市 4 茅野市 12 その他 1
	上伊	204 (5.8)	45 (4.6)	12 (5.0)	箕輪町 3 伊那市 7 その他 2
信	下伊	671 (19.0)	362 (37.4)	78 (32.5)	高森町 9 上郷町 6 飯田市 56 その他 7
	小計	1016 (28.8)	489 (50.5) [48.1]	113 (47.0) [23.1]	
計		3531 (100)	968 (100) [27.4]	240 (100) [24.8]	

[] の数字は $\frac{b}{a} \times 100$ [] の数字は $\frac{c}{b} \times 100$

図一 各時期の馬具副葬古墳の分布

(松尾昌彦「信濃の古墳」より、一部加筆)



るが、50基や100基ならともかく、1000基近く、あるいは240基という数字にはある程度の蓋然性がある。

これによると、長野県の古墳3500基余りの約40パーセントが北信地区にあり、約30パーセントが南信地区にある。東信・中信地区は相対的に少なく、それぞれ20パーセント・10パーセントにすぎない。

しかし、馬具副葬古墳に限ってみてみると、北信地区は馬具副葬古墳総数の18パーセントと著しくその比率を減らす、反対に南信地区は2分の1に近い47パーセントとかなり比率が高

くなる。また、東信・中信地区はわずかに増えるものの大きな変化はなく22パーセント・13パーセントである。

このようにみれば、たしかに南信地区の数字は異常に高いようにみえるが、何らかの遺物を出土した古墳に対する馬具副葬古墳の占める比率を比較してみると、また違う面が見えてくる。すなわち、北信地区では19パーセントとあまり変わらないが、南信地区は23パーセントであり、全県の25パーセントとほとんど差がなくなる。これに対して、東信地区は35パーセント、中信地区でも30パーセントと高い比率を占めている。北信地区では遺物出土古墳の5基に1基が馬具をもち、南信地区では4基に1基であるのに対して、東信・中信地区では3基に1基が馬具をもっていることになる。このことが何を意味するのかについて述べる前に、それぞれの地区のさらに小地区における馬具副葬古墳の分布の状況をみておきたい。

(1) 北信地区

(1)小布施町と須坂市の小規模な古墳群に2～3基の馬具副葬古墳がある。

須坂市の鎧塚2号墳は県下最大の積石塚古墳で6世紀に属し、轡・鈴杏葉と金銅製の獅子嚙文帯金具を出土した。また、同市の本郷大塚古墳からは8組の轡と金銅装圭頭太刀・銀象眼円頭太刀など17口の直刀が出土している。

(2)長野市街地北東部と若穂から松代にかけての地区にそれぞれ7～8基から10数基の群がある。

6世紀前半の上池の平5号墳からは鎌轡と考えられる轡一式が出土し、6世紀後半の湯谷東1号墳からは銀象眼が施された円頭柄頭が出土している。

篠ノ井石川の飯綱神社古墳からは県下最古級の輪鏡・鞍金具と県下唯一の例である蛇行状鉄器が出土している。

(3)更埴市には森將軍塚古墳周辺に小群があり、坂城町にも南条・中之条に6基ほどの群がある。

複環式鏡板を出土した森9号墳は5世紀末～6世紀初に属すると考えられている。

(2) 東信地区

(1)東部町に7基の群があり、上田市には市街地南西部の塩田平を中心に散在的ではあるが8基がある。そのほか、2～3基の小群が2つほどある。

上田市下之郷の塚穴原1号墳は鉄地金銅張りの鞍橋磯金具などと直刀13口、円頭柄頭・圭頭柄頭・金銅製鞆尻などを出土している。

(2)北佐久郡では立科町・望月町・浅科村にかけてやや集中し、望月町の山ノ神1号墳は轡4組のほか直刀19口・刀子32口など多数の武器類をもつ。また、浅科村の土合1号墳も直刀16口と円頭柄頭・方頭柄頭・銀象眼鏢などを出土した。

(3)小諸市では与良から加増にかけて7基程が集中し、佐久市では湯川右岸に小群があり東一本柳古墳は7世紀中頃から後半にかけての時期に属し、棘葉形杏葉と長方形2窓

鏡板付轡など終末期の馬具一括を出土した。

(3) 中信地区

- (1)穂高町から堀金村にかけての烏川扇状地に10基ほどで成る一群があるが、いくつかの小支群に分けられている。上原G1号墳は花形鏡板付轡をもち7世紀初頭に位置づけられる。
- (2)松本市では市街地東部の本郷・里山辺・中山にそれぞれ小群がある。里山辺の南方古墳からは金銅製圭頭柄頭が、桜立古墳からは頭椎柄頭が出土した。
- (3)東筑摩郡の山間部にも点々と数基が所在する。

(4) 南信地区

- (1)諏訪湖盆では西部の岡谷市に6基の小群と、南東部の諏訪市四賀から茅野市宮川にかけて10基の群、茅野市永明にも5基の小群が存在する。
岡谷市コウモリ塚古墳からはS字形の角形鏡板付轡・壺鏡が、同市スクモ塚古墳からは発見時の記録によると10数組の轡と金銅装太刀を含む7口の直刀および桂甲小札が出土している。
諏訪市豊田の小丸山古墳は桂甲小札と直刀7口、茅野市永明の大塚古墳は鉄製輪鏡をもつ。
- (2)上伊那地区は馬具副葬古墳が少ないが、辰野町の御社宮司古墳は金銅張花形鏡板と頭椎柄頭をもち、伊那市の如来堂古墳はf字形鏡板付轡と桂甲小札を有し、5世紀後半に位置づけられている。
- (3)下伊那では天竜川右岸の高森町市田から飯田市座光寺、上郷町、飯田市松尾・竜丘および川路にかけて一大集中域を形成し、ここだけで約70基を数える。これらはさらにいくつかの小群に分けることができる。左岸の豊丘村・喬木村にも5～6基の小群がある。
馬具を副葬する8基の前方後円墳は、鏡・環頭柄頭などの装飾太刀・桂甲などをもつものが多い。また、畦地1号墳は県下では唯一の優品である銀製垂飾付長鎖式耳飾を出土している。
5世紀後半から6世紀代の古墳が多い。

以上、主に分布状況を中心にみると、大小の差はあるものの各地区でそれぞれ群を成していることがわかる。これを図示したものが図—1である。

この図—1や先の表—1からも長水・更埴地区の群が小さすぎるように思えるが、どんな理由があるのだろうか。長野市には約490基からなる大室の大群集墳がある。県内ではもちろん最大で全国的にも有数な規模の古墳群ではあるが、遺物を出土した古墳は29基で約6パーセント、遺物出土古墳のうち馬具を副葬していたのはわずかに1基、3.4パーセントにすぎない。

試みに長野市の古墳880基からこの大室古墳群を除外して計算してみると、それぞれ約25パーセント・22パーセントとなり、全県平均の数値に近くなり、問題は、大室古墳群にありそうだとすることがわかる。同様に南信地区のうち下伊那だけを計算してみると、約54パーセント・22パーセントとなる。馬具副葬古墳の占める比率は奇しくも長野市と全く同じになったが、遺物出土古墳の占める割合に大きな差がある。つまり、下伊那では全古墳に占める遺物出土古墳は全県平均の2倍にも達しながら、馬具副葬古墳の占める割合はわずかながら全県平均を下回ってしまうのである。下伊那の馬具副葬古墳の絶対数はたしかに圧倒的な多さであり、78基という数は奈良盆地全体の総数を上回っているというが、絶対数の比較のみによるみかけに惑わされて、下伊那は馬具が多い、長水・更埴は少ないと言ってはならないこともわかってきた。

裏返して言うと、絶対数においてはたしかにそう多くはない東信・中信地区ではあっても、馬具副葬古墳の占める比率の高さをこそ問題にすべきであって、数の比較のみで云々してはならないのである。比率の示す数字の裏に大事な問題が隠されているのである。このことについては、後で若干触れることにするが、いくつか考えていることがあるので、詳細は別稿に譲る。

ともかく、ここに示した図表からは、よく言われる馬匹生産すなわち牧の存在との関わりや、ヒンダーランドの広狭だけでは解きあかせない問題が浮かび上がってくるのだ。

3 馬具副葬古墳の年代、時間的特徴

古墳に副葬された馬具の年代観については、小野山節氏や坂本美夫氏など多くの研究者によってその編年が確立してきた。ここではそれらの成果によりながら長野県の副葬馬具から年代を比定し、馬具副葬古墳としてどんなことが言えるのか考えてみたい。⁽⁸⁾

日本の古墳に副葬された原初的な馬具は、大陸からの舶載品である。その時期は4世紀末と考えられている。その後輸入に並行して日本でも模倣品が生産されるようになり、さらには日本独特の馬具も作られるようになる。その間をいくつかの期に分けているが、5期区分する小野山氏の編年によっておきたい。もちろん、馬具は伝世することも考えられ、異なる時期の馬具同士が組み合わせられてセットとして出土している例もあるので、截然と区分することは困難な場合が多いが、土器や他の副葬品の編年観も借りて年代を考えることにし、次の通りとする。

第Ⅰ期…5世紀前半、第Ⅱ期…5世紀中頃から6世紀初めまで、第Ⅲ期…6世紀初めから6世紀中頃まで、第Ⅳ期…6世紀中頃から6世紀末まで、第Ⅴ期…6世紀末から7世紀、である。なお、松尾氏は長野県下古墳出土の馬具を4期区分しているが、小野山編年の第Ⅱ期から第Ⅴ期にほぼ該当する。⁽¹⁰⁾なお、長野県下からは第Ⅰ期に該当する馬具は発見されていない。

(1) 第Ⅱ期

今まで長野県下で発見された最古の馬具を出土した古墳は、木心鉄板張輪鍔・鞍金具および蛇行状鉄器を出土した長野市篠ノ井の飯綱神社古墳とされている。木心鉄板張輪鍔はそれほど古くないとの指摘もあるが、蛇行状鉄器が5世紀後半に位置づけられているので、一応同時期

と考えておきたい。

これに次ぐものはf字形鏡板と剣菱形杏葉を出土した古墳である。飯田市座光寺の新井原第4号土壇からは鍍金されたf字形鏡板付轡と鉄地金張の剣菱形杏葉が出土している。この土壇は古墳ではなく、新井原第12号墳の被葬者に殉葬された馬の墓で、馬体に装着された状態で検出された全国でも希有の例である。f字形鏡板・剣菱形杏葉はともに小型であり古墳時代中期の5世紀後半に位置づけられる。伊那市富島の如来堂古墳からも鉄地金銅張のf字形鏡板付轡が出土しているが、新井原4号土壇例よりわずかではあるが大型化していることにより、やや新しいとされる。ともに鏡板の外側で遊環を介して引手と連結されており、引手壺は別造りである。

このような鉄地金銅張の馬具は装飾馬具であるが、先の飯綱神社古墳の馬具は装飾製に乏しいかなり実用的な馬具である。同様に質素実用的な馬具が更埴市森9号墳から出土している。複環式の環状鏡板である。いわゆる鎌轡と称されるものの一種であって、全国にも類例はあまり多くない。森9号墳例は同形式の中では最古の部類に属し、5世紀後半から6世紀前半の間に求められると考えられている。下伊那郡高森町の上洞3号墳・飯田市桐林の前の原6号墳も同形式の鏡板をもち、同じ時期とも考えられるが、伴出遺物が乏しいために確定的ではない。

東信・中信地区と南信地区でも諏訪地区には、まだこの期の馬具副葬古墳は現れていない。

(2) 第 III 期

この時期に入ると横穴式石室墳が築造されはじめるのと同時に馬具副葬古墳が増加する。とくに下伊那地区では上郷町天神塚古墳・飯田市高岡1号墳・御猿堂古墳・久保田1号墳など前方後円墳が登場するのが特徴である。これらの前方後円墳は装飾太刀である環頭太刀や、騎乗用の鎧である桂甲をもつことが多い。馬具としては久保田1号墳の鉄地金銅張の楕円形鏡板付轡⁽¹⁾・剣菱形杏葉・楕円形杏葉があり、装飾製に富む。また、高森町若宮2号墳・飯田市畦地1号墳は円墳だが、若宮2号墳からは大型化して新しい鉄地金銅張のf字形鏡板などと桂甲が、畦地1号墳からは鉄地金銅張の楕円形杏葉・心葉形杏葉などとやはり桂甲が出土している。畦地1号墳は全国でも類例の少ない銀製垂飾付長鎖付耳飾ももつ。f字形鏡板はこの時期まで残るが、大型化するとともに製作技法の上でも変化がみられる。下伊那地区のこの期の古墳副葬馬具は総じて装飾性が強い装飾馬具が多いと言える。

第II期には馬具副葬古墳がみられなかった中信地区にも、鉄地金銅張楕円形鏡板付轡と同じく鉄地金銅張の心葉形杏葉をもつ松本市中山の楡形原1号墳が登場する。この古墳の轡は銜と引手の連結方法が変わっている。鏡板と銜とは銜端の環を通す鉄板で留めているが、鏡板の外側で銜端の環に直交する形に別の環を鍛接し、この環に引手を連結している。別造りの引手壺が付く。なお、第II期のf字形鏡板付轡は引手両端の環が同方向を向いているのに対し、この古墳の例は90°の角度をもつ。引手を鏡板の内側に付ける方式はこの第III期からみられるが県内には良好な例はない。

一方、北信地区は第II期と同じく実用的な馬具が主流であつたらしく、装飾的な馬具はほと

んど見当たらない。長野市上池の平5号墳からは銜に振りを加えた鑣轡が出土していて、6世紀前半とされている。振りを加えた銜は中野市林畦1号墳と小県郡丸子町鳥羽山洞穴遺跡の2例が知られているが、銜のみの林畦1号墳はともかく鳥羽山洞穴遺跡は鉄製の楕円形鏡板をもつことから、鑣轡である上池の平5号墳例とは性格が異なると思われる。実用的な馬具が主流ではあっても、中野市金鑑山古墳からは環鈴・鈴や桂甲が、須坂市鑑塚古墳からは鈴杏葉が出土していることから、下伊那地区と同様の様相が見られはじめています。

東信地区、諏訪地区にはこの期に至っても、馬具副葬古墳は登場しない。

(3) 第IV期

県下全域に馬具副葬古墳が見られるようになる時期で、今まで全く存在しなかった地区にもかなりの数が築かれている。そして、前代まで多かった装飾馬具に変わって実用的な馬具が多くを占めるようになる。

しかし、装飾馬具もそれほど衰調したとは思われない。鉄地金銅張馬具の代表例には次のようなものがある。下伊那郡上郷町のトドメキ古墳は鉄製楕円形鏡板と複環式環状鏡板などをもつ。複環式環状鏡板の中では比較的新しい類に属し6世紀中頃と考えられている。楕円形鏡板はそれよりもやや古い6世紀前半に比定される。同郡喬木村の郭2号墳は楕円形鏡板付轡などを出土している。6世紀後半の時期が与えられている。なお、7世紀に下ると思われる十字透楕円形鏡板なども出土している。諏訪湖盆の茅野市宮川の疱瘡神塚古墳からは棘葉形鏡板付轡が出土した。この轡においては、鏡板の内側で銜端の環に引手の環を連結する方式が取られている。南安曇郡穂高町有明古墳群中の上原G1号墳は花形鏡板付轡と心葉形杏葉をもつ。鏡板は六花形で一つの花弁が方形の立間となり、6個の円形凹文が施されている。長野市松代の竹原笹塚古墳からは方形立間楕円形鏡板付轡が出土した。この轡は第II期のf字形鏡板付轡と同様の引手の連結方法を採用しており、両端の環の方向も同じなら別造りの引手壺を付ける所も同じである。立間には鉸具ではなく長連の兵庫鎖が取り付けられていて、この先に鉸具が付くものである。

第III期には主流になりつつあった環状鏡板付轡がこの期に爆発的増加を見せる。実質的な馬具の代表である環状鏡板は大きく3類に分けられ、(1)素環の鏡板に銜・引手・立間がそれぞれ別に取り付けられるもの、(2)方形立間が付き銜端の環に鏡板の環と引手の環が別々に連結するもの、(3)立間が鉸具となるものがある。(1)は環状鏡板の素朴な形とも考えられ、古手のものにもあり、また(3)はむしろ第V期に多いものである。長野市上松の湯谷東第1号墳からは3組の方形立間環状鏡板付轡とともに直刀4と銀象眼円頭柄頭、上田市下之郷の塚穴原2号墳からは3組3類の環状鏡板付轡、鉄地金銅張鞍橋磯金具・直刀13・円頭柄頭・金銅製鞆尻金具、北佐久郡浅科村の土合1号墳からは鉸具付環状鏡板付轡と直刀16・円頭柄頭・銀象眼鏢などが出土している。轡こそ実用的なものが多いけれども、杏葉や雲珠・辻金具・留金具などの飾り金具には金銅張製品が残り、むしろこの組合せが一般的であるように思われる。それとともに、直刀・鉄鏃などの武器をもつ古墳が急増する。飾られた鞍や装飾太刀を伴う古墳も各地区それぞれ

れにいくつか存在することも注意に値する。

(4) 第 V 期

この期は、飾られた馬具が凋落する一方、第IV期の主流になった環状鏡板付轡とわずかの飾金具類の馬具に武器一式をもつ古墳が圧倒的に多い。須坂市の本郷大塚古墳は轡8と金銅装圭頭太刀・銀象眼円頭太刀等直刀17をもち、松本市里山辺の南方古墳は轡・鐘形杏葉・鏡と直刀4・金銅製圭頭柄頭、岡谷市長地のスクモ塚古墳は轡10数組・鞍金具・鏡と金銅装太刀など直刀7・桂甲を出土しているし、轡・鏡のほかには杏葉・雲珠・辻金具・鈴など馬具一揃いをもつ諏訪市豊田の小丸山古墳も直刀7と桂甲を出土した。茅野市永明の大塚古墳・姥塚古墳も同様の遺物を出土した。7世紀も末の築造、あるいは8世紀の追葬が考えられる古墳から頭椎柄頭の太刀を出土することもある。

新しい型のS字形角形鏡板付轡や壺鏡を出土した岡谷市長地のコウモリ塚古墳もこの時期に属する。

飾られた馬具が全くなくなるわけではない。佐久市岩村田の東一本柳古墳からは鉄製の長方形鏡板付轡と金銅製の毛彫棘葉形杏葉・飾金具などが、上伊那郡辰野町の御社宮司古墳からは鉸具付環状鏡板付轡とともに、穂高町上原G1号墳例に似た8弁の鉄地金銅張花形鏡板が出土している。しかし、衰退の様相は覆うべくもない。

なお、下伊那地区における馬具を副葬する前方後円墳は飯田市松尾の上溝1号墳1基のみになってしまう。

年代別にながめてみると馬具副葬古墳の違った面が見えてくる。以上の流れをおおまかにまとめてみると、次のとおりになるろう。

第II期から第III期に盛行した装飾馬具は、実用の面はもちろん否定できないが、むしろ権威を示威するための面の方が強いように思える。つまり、儀器であり威信財だったのである。しかし、第III期には実用的な馬具である環状鏡板付轡の使用も等閑に付しがたいものが見られるようになる。とくに北信地区でその傾向が強いようだが、掘り出された時、金銅張の豪華な馬具は世人の注意を引くものの、何の装飾も施されない単なる鉄地の轡は鏝の固まりでしかなく、一瞥もされなかったことも多いだろう。ただ、北信地区には金銅張の装飾的な馬具が少なかったことは事実のようである。

第IV期から第V期にかけて、実年代では6世紀中頃以降7世紀は最も多くの馬具が副葬された時期である。飾られた馬具は勢いを失うが、杏葉・雲珠・辻金具・鈴などは金銅張されたものが素環の鏡板付轡と組み合わせられて使用されていたらしい。しかし、この時期の第一の特徴は騎乗用の桂甲と金銅装の円頭太刀・圭頭太刀などが馬具とともに副葬された古墳が各地区に散在していることと、実用的な轡のみがわずかの直刀や鉄鏃の武器一式とともに出土する例が圧倒的に多いことである。

4 馬具副葬古墳についての予察——おわりに代えて——

本稿はあくまで作業のつもりなので、本格的な考察は別の機会に行う予定である。しかし、地名表やその他の図表から考えられることのいくつかを整理し、長野県の馬具副葬古墳について少しまとめておきたい。

まず、馬具副葬古墳の偏在性の問題だが、絶対数の上で下伊那地区の優位性は否めないところであるので、馬具を副葬できるような階層の者が多かったことは事実である。しかも、特に第Ⅱ期～第Ⅲ期は威信財的な装飾馬具を多くもっていることから、中央政権と結びついた政治的に優位な集団が存在したことは容易に考えられる。とくに6世紀前半に属する前方後円墳が多いことから、馬具を副葬した早い時期には他の地域とは比較にならないほどの大きな勢力があった。科野国造の初期の繁衍地をこの地に求める考えも、あながち牽強付会なことではないだろうか。

ところが、遺物出土古墳に対する馬具副葬古墳の割合は絶対数の偏在性とは違った数値を示した。長野県に存在する古墳の3分の2は6世紀後半から7世紀にかけてのものだと言われるが、この時期は馬具の第Ⅳ期から第Ⅴ期にあたり、馬具の数が爆発的に増加する時期である。そうすると、この時期に馬具副葬古墳が多くなった東信地区・中信地区における遺物出土古墳に対する比率の高いのを見逃すわけにはいかない。古墳時代の遺跡の割合は、南信地区においては馬具副葬古墳のそれとうまく合致しているが、中信地区では馬具副葬古墳の比率が2倍にもなるのである。遺跡と古墳が全て

表一 長野県の弥生時代後期・古墳時代遺跡数

対応するわけではないけれども、少ない遺跡で多くの馬具副葬古墳を築いていることは、農業以外の何らかの経済的背景を考えざるをえない。それはやはり馬匹生産であろうか。

次に、第Ⅳ期・第Ⅴ期の質素で実用的な馬具とともに、直刀や鉄鏃などの武器を伴出する古墳の被葬者の問題である。これらの古墳は、「轡、直刀、鉄鏃、勾玉・管玉・ガラス小玉などの玉類、金環・銀環」をセットとしてもつことが多い。そして、何の飾り気もない実用一点張りの質素な馬具と、直刀が騎馬戦に向く長刀でさしたる刀装もされていないことが多いことから、こういった古墳の被葬者は前線で戦う騎兵であると

地 区		弥生時代後期		古 墳 時 代	
北	飯 水	51	272 (20.7)	29	202 (22.9)
	須 高	73		55	
	長 水	102		75	
信	更 埴	46		43	
東	上 小	218	399 (30.4)	69	210 (23.7)
	北 佐 久	157		123	
	南 佐 久	34		18	
中	大 北	25	111 (8.4)	15	54 (6.1)
	南 安 曇	8		6	
	松 筑	67		32	
	信	木 曾		11	
南	諏 訪	49	532 (40.5)	37	418 (47.3)
	上 伊 那	177		81	
	信	下 伊 那		306	
合 計		1314 (100)		884 (100)	

思われる。このような古墳が群をなして存在する地域に、飾られた馬具や装飾太刀をはじめとする多くの武器および桂甲などをもつ古墳がみられる。これは、古墳の規模も大きいことが多く盟主墳的であるので、一般的な騎兵を率い指揮して戦う指揮官的な人物が被葬者として想定される。つまり、騎兵の中にも階層があったと考えられるのである。

この二つの問題は別段矛盾するものでないことは岡安氏の指摘のとおりであろう。すなわち、直木孝次郎氏による大化前代の舎人の階層「(何某) 舎人直——(何某) 舎人——(何某) 舎人部」という考えを、長野・静岡県に多い馬具副葬古墳と文献に見られる金刺舎人・他田舎人との関係などから具体的に補強し、一般の騎兵を「(何某) 舎人」、指揮官を「(何某) 舎人直」と考え、これらを「東国舎人騎兵」とした。両県でおおよそ1000騎の騎馬集団を考え、平時は馬匹生産に従事する屯牧兵であり、一朝有事に際しては騎兵として出陣したのだという。

しかし、これで問題は全て解決するのだろうか。そうではないと思う。須高地区や東筑地区にみられる馬具副葬の積石塚の問題や、大室牧の前身に関わると言われる大室古墳群にかえって馬具が少ないこと、森將軍塚古墳や川柳將軍塚古墳など前期の前方後円墳を築きえた善光寺平南部の大沖積地の周辺に馬具副葬古墳が少ないこと、馬具以前の時期には勢力が弱かった地域に馬具副葬古墳が相対的に多いことなど、問題はまだ多い。けれども、長野県における馬具副葬古墳の爆発的増加の画期が、東国の国造の多くが定められた6世紀中頃であることから、全て大和を中心とする政治的な動きの中で考えなければ解釈できないと思われる。あたかも国府や国分僧尼寺が上小地区に置かれた問題を考えるのと同様である。

ともあれ、地名表はできたが、副葬された馬具の形式や組成など内容が不明なものが多い。今後さらに集成につとめ、分析をした上で詳細に考えてみることにしたい。

(注)

- (1) 長野県の旧国名である「科野」が歴史的にどこまで遡れるかはわからないが、和銅6年(713)、諸国郡郷名の好字制により「科野」が「信濃」になった(『続日本紀』)。「信濃」の上限が8世紀初頭であれば、それ以前は「科野」であり「信濃」であるはずはないので、ここでは国名に「科野」を使用することにした。
- (2) 『長野県史 考古史料編 第一巻(1) 遺跡地名表』(1981)を底本とし、その後刊行された郡誌・市町村誌(史)や発掘調査報告書などにより補った数字である。
- (3) 岡安光彦「馬具副葬古墳と東国舎人騎兵——考古史料と文献史料による総合的分析の試み——」『考古学雑誌』71—4, 1986
- (4) 藤森栄一『信濃諏訪地方古墳の地域的研究』1944など。
- (5) 松尾昌彦 a 「飯田市周辺における前方後円墳の実測調査」『信濃』34—11, 1982, (川名広文・高崎光司・伊奈美賀子と共同執筆)
b 「下伊那地方における馬具の一様相」『長野県考古学会誌』45, 1983
c 「有明古墳群の再調査」『信濃』35—11, 1983, (岩崎卓也・松村公仁と共同執筆)
d 「信濃の馬具」『東日本における古墳時代遺跡・遺物の基礎的研究』昭和57—59

年度科学研究費補助金（一般研究C）研究成果報告書，1985

- (6) 岡安光彦 前掲注(3)論文。
- (7) 岡安光彦 前掲注(3)論文。
- (8) 馬具全般について参照したもののみをあげておく。
小野山節 a 「馬具と乗馬の風習」『世界考古学大系 3 日本III』1959
b 「古墳時代の馬具」『日本馬具大鑑 一 古代上』1992
坂本美夫 a 『馬具』1985
b 「4～5世紀の馬具」『考古学ジャーナル』257, 1985
岡安光彦 「6～7世紀の馬具」『考古学ジャーナル』257, 1985
千賀久 「馬具」『古墳時代の研究 8 古墳II 副葬品』1991
鏡板・杏葉などの編年については、なお多くの論考を参考にした。
- (9) 小野山節 前掲注(8) b 論文。
- (10) 松尾昌彦 前掲注(5) d 論文。
- (11) 装飾太刀については、新納泉「装飾付大刀と古墳時代後期の兵制」『考古学研究』30—3, 1983 を参考にした。
- (12) 桐原健 a 「信濃における古墳出土の鉄剣」『信濃』22—4, 1970
b 「東山道」における信濃」『列島の文化史』1, 1984
- (13) 新納泉 前掲注(11)論文。
- (14) 岡安光彦 前掲注(3)論文。
- (15) 直木孝次郎『日本古代兵制史の研究』1968

〔追記〕 本稿擱筆後、二例の新たな馬具出土例を知った。一つは平成4年度の飯田市松尾の茶柄山古墳群発掘調査で馬を埋葬した墓11基が検出されたものである。9基が一つの古墳に集中し、そのうち7基は周湟中にほぼ一直線に並んでいたという。そして、この馬の墓の歯の下から三環鈴が出土した。新井原4号土墳例と同様に、装着されたまま埋葬されたものと考えられるが、その位置から面繫の装飾として付けられたものではないかと思われる。まだ詳細な報告がなされていないので細部については不明だが、茶柄山古墳群は5世紀末頃の築造と言われているので、この三環鈴も第II期に属する古式の馬具と考えてよいだろう。

また、上信越自動車道建設にともなう平成4年度の長野市若穂綿内の榎田遺跡の発掘調査でも、木製の馬具が出土した。千曲川の網状の流れの一つと考えられる河川跡から農具・武器・紡績具など多くの木製品とともに出土したもので、鞍の後輪と壺鐙がある。調査者によると、5世紀前半に位置づけられるという。これは長野県内にはかつてなかった第I期の馬具ということになり、古墳副葬馬具を含めて県内では最古の馬具になるが、全国的な事例からしても更に検討されるべきものであろう。

表一 3 長野県馬具副葬古墳地名表

番号	古墳名	所在地	形態規模	出土遺物		時期
				馬具	その他	
1	和栗古墳	下高・木島平村 穂高	円	轡1	直刀4, 玉類, 土師器	
2	東町4号墳	〃 山ノ内町 東町	円	(伝)馬具	(伝)刀剣	
3	林畦1号墳	中野市田麦林畦	円23	銜, 引手	鉄剣, 槍, 短甲, 玉類	6初
4	金鎧山古墳	〃 金鎧山	円21	轡, 鉸具, 環鈴, 鈴, 留金具	鏡2, 玉類, 貝輪, 劍 3, 刀5, 矛2, 鉄鏃 250, 斧, 鋸2, 土師 器, 須恵器	6前
5	外不動5号墳	上高・小布施町 外不動	円10	轡1, 雲珠1	直刀1, 鉄鏃5, 土師 器	
6	鳥の林2号墳	〃 〃 林の内	円10	轡	刀剣2, 須恵器, 人骨 2	
7	新保塚古墳	〃 高山村 三軒屋	円	(伝)馬具	(伝)直刀	
8	本郷大塚古墳	須坂市日滝宮原	円12	轡8, 鉄鎧, 鉸具, 兵庫鎖	鏡, 玉類, 耳環14, 直 刀17(金銅装圭頭太刀, 銀象眼円頭太刀他), 鉄鏃86	7前 ~ 7中
9	鎧塚2号墳	〃 鎧塚	円25	轡, 鈴杏葉	直刀, 鉄鏃, 金銅製帶 金具, 小玉, 埴輪(家 形・器財・円筒)	6
10	吉75号墳	長野市若槻吉	円15	辻金具	刀子7, 玉類, 金環,	7後
11	田子2号墳	〃 田子北村	円15	轡	直刀, 鉄鏃, 玉類, 金 環	
12	金塚古墳	〃 浅川西条	円	轡	直刀, 勾玉, 金環	
13	県主塚古墳	〃 〃 東条	円	轡2	直刀4, 刀子, 鉄鏃, 玉	
14	諏訪平古墳	〃 〃 平芝 夏目原	円	馬具	直刀3, 玉類	
15	上池ノ平5号墳	〃 地附山	円9	轡1	劍1, 刀子2, 鉄鏃7	6前
16	湯谷東1号墳	〃 上松 湯谷東沖	円12	轡3, 雲珠1, 鉸 具, 帶金具3, 鉄鎖	直刀4, 銀象眼円頭柄 頭, 刀子7, 鉄鏃50, 耳環8, 玉類, 土師器, 須恵器	6後
17	高下1号墳	〃 保科高下	円	雲珠	直刀1, 鉄製柄頭1, 鉄鏃4, 玉類, 耳環, 金銅製金具, 須恵器	
18	和田6号墳	〃 〃 和田北	円12	轡	劍, 直刀, 柄頭, 玉類	
19	城窪1号墳	〃 〃 城窪	円5	銜	直刀, 刀子, 鉄鏃, 勾 玉	
20	城窪2号墳	〃 〃 〃	円	馬具	土師器, 須恵器	
21	長原7号墳	〃 〃 大道添	円10	鉸具	鉄鏃1, 丸玉1, 金環 3	

22	大星山4号墳	長野市川田下和田	円11	馬具	直刀, 鉄鏃, 円頭柄頭	
23	大星山5号墳	〃 〃 〃	方	馬具	玉類	
24	大室5号墳	〃 〃 町川田	円6	馬具	刀子, 鉄鏃, 銀環	
25	桜田塚古墳	〃 篠ノ井 田野口	円	馬具	直刀, 刀子	
26	飯綱神社古墳	〃 〃 石川	円16	鞍金具, 輪鏝, 鉸 具, 蛇行状鉄器	鏡, 劍3, 直刀2, 玉 類	5後
27	丸山4号墳	〃 〃 〃	円	轡, 雲珠	金銅製太刀, 刀子, 鉄 鏃, 丸玉, 耳環, 釘, 須恵器	
28	大室436号墳	〃 大室萱場	円14	鉸具, 雲珠	鐙, 刀子, 鉄鏃, 玉類, 銀環, 土師器, 須恵器	
29	竹原笹塚古墳	〃 松代東条 竹原	円26	轡2, 杏葉2, 鉸 具, 雲珠	直刀	6後
30	菅間王塚古墳	〃 松代西条 菅間	円34	馬具	直刀, 須恵器, 円筒埴 輪	
31	牧内1号墳	〃 〃 豊栄 牧内	円13	雲珠	鉄鏃, 勾玉, 金環	
32	観音塚古墳	〃 〃 平林 村北	円18	轡, 雲珠, 辻金具	六鈴鏡, 鐙, 鉄鏃, 甲 冑, 玉類, 耳環	
33	森2号墳	更埴市森大穴山	円20	鉸具2	小玉, 紡錘車, 土師 器, 須恵器, 埴輪	5中
34	森3号墳	〃 〃 〃	円	轡1, 鉸具, 辻金 具, 革金具	刀子, 斧, 鉄鏃, 玉 類, 耳環	6後
35	森9号墳	〃 〃 〃	円15	轡1	刀劍, 鉄鏃, 玉類, 土 師器, 須恵器	5末 6初
36	県山古墳	〃 〃 県山	円12	轡3	直刀4, 刀子, 鏝2, 玉類, 須恵器, 円筒埴 輪	
37	藤ノ木古墳	埴科郡戸倉町 藤ノ木	円	馬具	直刀3, 小玉, 土師器 須恵器	
38	カリ塚古墳	〃 坂城町南条	円10	(伝)馬具	(伝)刀	
39	長原古墳	〃 〃 〃	円	鉸具		
40	前山1号墳	〃 〃 中之条	円	馬具	刀子, 鉄鏃, 玉類, 耳 環	
41	むじな塚古墳	〃 〃 〃	円20	轡, 雲珠, 杏葉	直刀3, 玉類, 耳環, 銅釧2	6後
42	むじな塚東方 古墳	〃 〃 〃	円	轡, 雲珠		6後
43	むじな塚北方 古墳	〃 〃 〃	円	轡, 雲珠		6後
44	鶴ノ子田古墳	小県郡真田町下原	円	馬具	直刀	
45	耳塚古墳	〃 東部町和 深井	円	馬具	直刀2, 刀子, 釘, 銀 環	
46	右近塚古墳	〃 〃 〃 丸山	円12	轡	鉄鏃, 金環, 須恵器, 馬骨	

47	八幡社前古墳	東部町和深井 海善寺	円18	馬具 2	直刀 4, 鉄鏃, 玉類, 耳環, 円筒埴輪, 人骨 7 体	
48	地獄沢古墳	〃 〃 〃		轡, 杏葉 4, 鉄鈴	鏡, 直刀 3, 鉄鏃, 耳 環	6 後
49	二子塚古墳	〃 〃 〃	円15	雲珠, 留金具	玉類, 耳環, 土師器, 須恵器, 埴輪 (円筒, 器財, 人物, 動物)	6 後
50	獅子塚古墳	〃 〃 祢津 西宮	円	轡	直刀, 刀子	6 末
51	伊勢原 2 号墳	〃 〃 田中	円10	轡	須恵器	7 前
52	塚穴古墳	〃 青木村村松	円18	轡	直刀, 鎌, 玉類, 土師 器, 須恵器	7 前
53	池の平古墳	〃 丸子町東内	円	吊り金具	直刀 2, 刀子 20, 玉類	
54	鳥羽山洞穴遺 跡	小県郡丸子町腰越	洞穴	轡	鉄剣, 鉄鏃, 工具類, 鳴鏑, 石釧, 紡錘車, 玉類, 土師器, 須恵器	5 中
55	下郷 1 号墳	上田市殿城神林	円	馬具	直刀, 玉類, 金環	
56	下郷 2 号墳	〃 〃 〃	円	雲珠	直刀, 刀子, 玉類, 金 環	
57	矢花 1 号墳	〃 上野矢花	円10	馬具	直刀, 勾玉, 金環	
58	矢花 2 号墳	〃 〃 〃	円	馬具	金環	
59	笹井塚古墳	〃 古里市ノ井 久保	円	馬具	直刀 2, 刀子	
60	宮原古墳	〃 秋和	円	馬具	直刀 1, 鉄鏃, 土師器	
61	森の木	〃 諏訪形	円	轡	直刀, 銀環	
62	月天塚古墳	〃 御所下堰下		轡 5	直刀, 鉄鏃, 勾玉, 金 環	
63	影通古墳	〃 小泉影通		轡, 雲珠	直刀, 鉄鏃, 紡錘車	
64	他田塚古墳	〃 下之郷	円18	轡 2, 辻金具 4, 馬 鈴状銅器	直刀 3, 鉄鏃 50, 刀子 6, 玉類, 金環, 土師 器, 須恵器	7 前
65	塚穴原 1 号墳	〃 〃	円21	轡 3, 杏葉, 雲珠, 鉸具, 鞍橋金具	直刀 13, 刀子 5, 鉄鏃 13, 鐙, 円頭柄頭, 圭 頭柄頭, 金銅製鞆尻, 玉類, 耳環	6 後
66	皇子塚古墳	〃 手塚	円15	轡	直刀, 鉄鏃, 玉類, 金 環	7 前
67	上塚古墳	〃 別所温泉 東大湯	円	壺鍙		
68	正明寺古墳	北佐・立科町峠列	円	轡, 雲珠	直刀, 玉類, 金環, 銅 釧	
69	火の雨塚古墳	〃 〃 塩沢	円10	馬具	直刀	
70	柳沢 3 号墳	〃 望月町布施 柳沢	円	馬具	直刀 4, 鉄鏃, 小玉	
71	ヒノ雨塚古墳	〃 〃 茂田井	円	馬具		

72	下高呂7号墳	北佐・望月町協和	円11	馬具	直刀, 刀子, 鉄鏃, 玉類, 金環, 須恵器	
73	山ノ神1号墳	〃 〃 〃	円	馬具4, 金鈴2	直刀19, 刀子32, 鉄鏃53, 玉類, 耳環, 埴輪	
74	上平の塚古墳	〃 浅科村 御馬寄	円9	馬具	直刀, 玉類	
75	土合1号墳	〃 〃 五郎兵衛新田	円	轡	直刀16, 円頭柄頭, 方頭柄頭, 銀象眼鏢, 刀子2, 鉄鏃14, 鋸, 玉類, 金環	7初
76	久保畑古墳	〃 〃 桑山	円	轡	直刀7, 頭椎柄頭, 刀子, 鉄鏃, 矛, 土師器	
77	諸2号墳	小諸市諸別府	円	馬具	直刀, 方頭柄頭, 鉄鏃玉類, 金環, 銅釧	
78	諸9号墳	〃 〃	円	馬具	直刀, 鉄鏃, 玉類, 金環	
79	与良芹沢古墳	〃 与良	円	轡3, 鉸具, 留金具2	直刀6, 刀子3, 鉄鏃25	7
80	立原1号墳	〃 立原	円	馬具	直刀	
81	加増4号墳	〃 加増中村	円	馬具	直刀, 玉類, 人物埴輪	
82	加増6号墳	〃 〃 〃	円	馬具	直刀, 土師器	
83	加増16号墳	〃 〃 〃	円	馬具		
84	加増17号墳	〃 〃 〃	円	銜	刀子2, 玉類, 耳環	
85	堰下6号墳	〃 甲堰下		轡	直刀, 鉄鏃, 金環	
86	宮の前古墳	〃 耳取宮の前	円	馬具	直刀1	
87	長峯7号墳	佐久市内山長峯	円10	轡1	刀子, 鉄鏃, 玉類, 耳環	7中
88	家地頭1号墳	〃 常田	円	轡1, 金銅雲珠, 鉸具	鉄鏃46, 玉類, 埴輪	7
89	東一本柳古墳	〃 岩村田 東一本柳	円10	轡1, 杏葉, 鉸具, 飾金具	円頭柄頭, 鏢, 刀子2, 鉄鏃, 玉類, 耳環	7
90	下大豆塚古墳	〃 長土呂		鏡板	鉄鏃13, 白玉1	7
91	からむし1号墳	〃 平根横根	円	馬具	直刀, 玉類	
92	ウバ塚古墳	〃 根岸十二	円9	馬具	鉄鏃	
93	西東山古墳	〃 〃 明光庵	円	馬具	直刀5, 勾玉, 須恵器	
94	儘田古墳	〃 跡部儘田	円	轡	刀子, 土師器, 須恵器	
95	小学校跡地古墳	〃 大沢本郷	円	馬具	直刀, 鉄鏃, 玉類, 金環	
96	新郷1号墳	大町市平新郷		馬具		
97	有明A1号墳	南安・穂高町有明 押出	円17	馬具	直刀, 土師器, 須恵器	6後
98	有明A6号墳	〃 〃 〃 夫婦岩	円13	轡2, 杏葉2, 雲珠1, 鉸具, 鎧	直刀, 鉄鏃, 須恵器	6後

99	有明A 8号墳	南安・穂高町有明 有明		鉸具	玉類, 金環	
100	有明B 5号墳	〃 〃 〃 四ツ堀	円15	轡3, 鉸具	直刀, 鏢, 玉類, 金環	
101	有明B 23号墳	〃 〃 〃 水晶山	円14	馬具, 菱形留金具	直刀, 玉類, 金環	
102	有明D 1号墳	〃 〃 〃 金掘塚		金銅張飾金具, 留金具	鉄鏃, 須恵器	7前
103	牧E 8号墳	〃 〃 牧 狐塚	円18	轡2	直刀8, 鏢, 鉄鏃, 槍 玉類, 金環, 銅釧	7前
104	塚原F 2号墳	〃 〃 塚原 巾上	円3	(伝) 馬具	須恵器	
105	上原G 1号墳	〃 〃 上原 原田	円	轡(花形鏡板) 1, 杏葉, 留金具	直刀, 刀子, 玉類, 耳 環	6後
106	曲尾古墳	南安・堀金村三田	円7	(伝) 轡	(伝) 直刀5, 金環	
107	古城下古墳	〃 〃 〃	円10	(伝) 轡	勾玉, 須恵器	
108	安坂4号墳	東筑・坂井村 中安坂	方15	轡1, 鍍金馬具残片	直刀4, 柄頭, 鏢, 鉄 鏃, 玉類, 紡錘車	
109	安坂5号墳	〃 〃 〃	方11	馬具	直刀, 玉類	
110	武士塚古墳	〃 坂北村 刈谷原	円	轡1, 雲珠, 鉸具, 鏡1	直刀4, 鉄鏃, 甲冑残 片, 玉類, 耳環	7前
111	塚田古墳	〃 本城村東条	円	轡1	直刀2	
112	金山塚古墳	〃 明科町 東川手	円20	轡	直刀, 須恵器	
113	上郷古墳	〃 〃 中川手	円	轡	直刀2, 甲冑	
114	ぶす平古墳	〃 〃 〃	円	轡	直刀, 玉類, 耳環	
115	水汲1号墳	松本市本郷水汲	円	轡1	直刀3, 管玉	7
116	横谷入古墳	〃 〃 上浅間	円	轡1	劍2, 直刀3, 鏢, 勾玉	
117	妙義山2号墳	〃 〃 浅間	円9	轡	直刀, 鉄鏃, 玉類, 金 環	
118	大屋敷古墳	〃 〃 大村	円	轡	直刀3, 小玉	
119	里山辺12号墳	〃 里山辺 上金井	円	轡1	直刀3, 勾玉, 耳環	
120	里山辺16号墳	〃 〃 薄町	円5	轡3	直刀3	
121	里山辺10号墳	〃 〃 南小松	円	轡	直刀2, 管玉	
122	南方古墳	松本市里山辺	円	轡, 杏葉, 鏡, 鉸 具, 鏢, 辻金具, 飾 金具	直刀4, 金銅製圭頭柄 頭, 刀子, 鉄鏃, 玉 類, 耳環, 銅鏡, 承盤	7中 7後
123	坪ノ内1号墳	〃 中山坪ノ内	円	轡3, 鉸具, 兵庫鎖	柄間金具, 鉄鏃	
124	桜立古墳	〃 〃 桜立	円25	轡, 雲珠	鏡, 直刀, 頭椎柄頭, 鉄鏃, 玉類, 金環	7前
125	鍬形原1号墳	〃 〃 中山	円13	轡2, 杏葉, 鉸具,		7初

				辻金具, 留金具		
126	柏木古墳	松本市中山柏木	円17	轡4, 辻金具3	直刀4, 鉄鏃53, 玉類 耳環	6末 7中
127	立石古墳	〃 島内高松	円	馬具	直刀	
128	記常塚古墳	塩尻市塩尻上西条	円	轡1	直刀2, 勾玉, 銀環	7
129	天白古墳	諏訪郡下諏訪町 下原	円	轡, 鏡吊金具	直刀, 鉄鏃, 玉類, 金 環	
130	唐櫃石古墳	岡谷市長地横川	円	鉸具	直刀, 刀子, 鉄鏃	
131	コウモリ塚古墳	〃 〃 中屋	円12	轡, 覆輪金具, 鏡, 鉸具, 飾金具	刀子, 石突様金具, 鉄 釘	7後
132	スクモ塚古墳	〃 〃 〃	円26	轡(十数组→「発掘 時の記録」), 鞍金 具, 鉄鏡, 辻金具	直刀7(金銅装太刀1) 剣, 鉄鏃, 桂甲小札, 玉類, 耳環	7前
133	塚の山古墳	岡谷市三沢塚の山	円	轡		
134	荒神塚古墳	〃 〃 垣外	円	轡, 吊金具(鉸具付 鉄鎖), 辻金具	直刀10, 円頭柄頭, 鉄 鏃, 桂甲小札, 玉類, 金環	7後
135	大塚古墳	〃 小田井 中小路	円	(伝)馬具	直刀	
136	綿之芝古墳	諏訪市上諏訪岡村	円	馬具	直刀, 刀子, 鉄鏃	
137	四ツ塚D号墳	〃 四賀桑原	円	轡, 鉸具	直刀, 鏢, 鉄鏃, 釘	
138	小丸山古墳	〃 豊田有賀 平林	円	銜2, 鏡板, 鏡2, 杏葉, 雲珠, 鉸具, 辻金具, 銅鈴	直刀7, 鏢5, 桂甲小 札, 鉄鏃,	
139	双子塚古墳	〃 〃 大熊 大道上	円	轡, 鉸具, 辻金具	直刀, 鏢, 刀子, 鉄鏃 鏃, 鎌, 玉類, 金環	
140	雨降塚古墳	茅野市宮川坂室	円	馬具	刀剣3, 鉄鏃, 玉類, 金環	
141	金鏢塚古墳	〃 〃 塚屋 久保	円	鏡板, 鞍橋金具, 雲 珠	直刀3, 鏢	
142	四ツ塚2号墳	〃 〃 茅野	円	轡	直刀, 鉄鏃, 刀子, 金 環	
143	四ツ塚3号墳	〃 〃 〃	円	馬具	直刀2, 金環	
144	四ツ塚4号墳	〃 〃 〃	円	轡, 雲珠, 鉸具	直刀, 鉄鏃, 玉類, 金 環	
145	疱瘡塚古墳	〃 〃 高部 熊野堂	円	轡, 杏葉	直刀	
146	乞食塚古墳	〃 〃 〃 御廟	円	轡, 辻金具	直刀, 鏢, 鉄鏃, 玉類	
147	釜石古墳	〃 永明塚原	円	轡	直刀, 刀子, 玉類	
148	一本榎古墳	〃 〃 〃	円	馬具	直刀, 刀子, 鉄鏃, 玉 類, 金環	
149	大塚古墳	〃 〃 〃	円6	轡4, 鉄鏡, 鉸具付 吊金具, 鞍金具 鉸具	直刀, 円頭柄頭, 刀子 玉類, 耳環, 鉄釘, 銅 鏡	7末
150	姥塚古墳	〃 〃 〃	円	轡	直刀, 鏢, 桂甲小札,	7末

					鉄鏃, 玉類, 青銅, 和鏡	
151	王経塚古墳	茅野市永明本町西	円 7	鉸具	刀子, 鉄鏃, 金環	
152	御社宮司古墳	上伊・辰野町平出	円	轡, 雲珠	直刀, 頭椎柄頭, 鏢, 玉類, 耳環	
153	春奈古墳	〃 箕輪町 東箕輪	円10	馬具	直刀	
154	羽場森 2 号墳	〃 〃 〃	円17	馬具	直刀, 玉類	
155	久保畑古墳	〃 〃 〃	円	馬具		
156	狐塚南古墳	伊那市西町小黒原	円24	轡, 杏葉	刀子, 鉄鏃, 玉類, 金環	
157	名廻東古墳	〃 西春近白沢	円	銜 2	直刀 3, 刀子11, 鉄鏃 35, 白玉, 金環, 紡錘車	
158	富士塚古墳	〃 〃 諏訪形		轡 1	刀子 2, 鉄鏃13, 小玉	
159	洞 3 号墳	〃 東春近洞	円 8	馬具	直刀	
160	瀬戸 2 号墳	〃 〃 田原 瀬戸	円 5	馬具		
161	如来堂古墳	〃 富県南福地	円	轡, f 字形鏡板, 鉸具, 留金具	直刀, 刀子, 鉄鏃, 桂甲, 小札, 鉄斧, 鉄釘, 鏃	5 後
162	菖蒲平古墳	〃 〃 〃	円	轡, 鉸具	直刀, 刀子, 鉄鏃, 管玉, 耳環, 鉄釘	
163	丸塚古墳	駒ヶ根市赤穂 小町谷	円	馬具	直刀	
164	落洞古墳	下伊・松川町大島 名子	円10	雲珠, 銅鈴	金銅薄板, 玉類, 耳環	
165	屋敷添古墳	〃 〃 元大島	円14	馬具	直刀, 頭椎柄頭, 鏢, 玉類, 金環	
166	若宮 2 号墳	〃 高森町市田	円	轡, f 字形鏡板, 杏葉, 銅鈴	刀装具, 石突, 紡錘車	6 前
167	南田古墳	〃 〃 〃	円 7	銅鈴		
168	中谷古墳	〃 〃 〃	円	馬具	直刀, 矛	
169	武陵地 1 号墳	〃 〃 〃	円17	杏葉, 雲珠, 鉸具, 鏃, 銅鈴	直刀 2, 鉄鏃, 玉類, 金環, 銅鏡片	7 初
170	武陵地 3 号墳	〃 〃 〃	円	雲珠	直刀 4, 鏢, 矛, 耳環	
171	武陵地 6 号墳	〃 〃 〃	円24	轡	直刀	
172	上洞 2 号墳	〃 〃 〃	円	杏葉	直刀	
173	上洞 3 号墳	〃 〃 〃	円	轡 2 (複環式)	劍	5 後
174	鎌ナギ古墳	〃 〃 〃	円	銅鈴	直刀	
175	トドメキ 1 号墳	〃 上郷町別府 トドメキ	円	轡 (複環式)	直刀 8, 鏢, 刀子 3, 鉄鏃37, 玉類, 耳環, 紡錘車, 鉄先	6 中
176	中島 6 号墳	〃 〃 〃	円 5	轡		

		向垣外				
177	番神塚古墳	下伊・上郷町北村	前方 後円	杏葉, 馬具	直刀, 五鈴鏡, 瓔珞, 玉類, 金環	
178	弓矢古墳	〃 〃 〃 弓矢	円	轡 2, 杏葉	直刀, 環頭柄頭, 鉄鏃 玉類, 金環, 金銀箔	
179	川底古墳	〃 〃 〃 川底	円	轡		
180	天神塚古墳	〃 〃 飯沼 天神塚	前方 後円	馬鈴, 馬具	漢式鏡, 四鈴鏡, 六鈴 鏡, 環頭柄頭, 鉄鏃, 玉類	6 前
181	古城古墳	下伊・阿智村駒場	円	轡	直刀	
182	郭 2 号墳	〃 喬木村阿島 郭	円	轡 19, 杏葉 2, 雲 珠, 鉸具 3,	直刀, 刀子 4, 金環	6 後
183	井ノ上古墳	〃 〃 伊久間	円 7	轡	冑, 鉄鏃, 切子玉, 金 環	
184	小平 2 号墳	〃 〃 富田	円 9	轡	直刀	
185	大宮南古墳	〃 豊丘村河野 中部	円	杏葉, 馬具	鉄鏃, 円筒埴輪	
186	東養寺 2 号墳	〃 〃 神稻 田村	円	雲珠	直刀, 鉄鏃, 管玉, 金 環, 釘, 石製模造品	
187	古市場 1 号墳	飯田市座光寺 古市場	円	馬具	金銅丸玉	
188	壱丈藪 3 号墳	〃 〃 壱丈藪	円 7	轡 1, 鉸具, 辻金 具, 留金具, 飾り鉾	鏡, 直刀 4, 鐔, 刀子 5, 鉄鏃, 玉類, 金環	7 後
189	畦地 1 号墳	〃 〃 畦地	円 20	馬具	劍, 直刀, 刀子, 桂甲 片, 玉類, 耳環, 銀製 垂飾付長鎖式耳飾	6 前
190	畦地 2 号墳	〃 〃 〃	円	馬具	鎌類, 金環	
191	鳥屋場 2 号墳	〃 〃 鳥屋場	円	馬具	直刀, 玉類	
192	石行 1 号墳	〃 〃 石行	円	鉸具	劍 5, 直刀 3	
193	高岡 1 号墳	〃 〃 高岡	前方 後円	菱形留金具	玉類, 金環, 埴輪 (円 筒形象)	6 前
194	高岡 3 号墳	〃 〃 〃	円	轡	直刀 3	
195	上野古墳	〃 〃 上野	円	馬具	直刀, 玉類	
196	新井原 2 号墳	〃 〃 新井原	円	馬具	劍, 直刀, 槍, 矛, 短 甲冑	
197	新井原 5 号墳	〃 〃 〃	円	馬具	劍, 直刀, 玉	
198	新井原 7 号墳	〃 〃 〃	円	鉸具	鏡, 直刀, 鉄鏃, 短甲 玉類, 耳環	
199	新井原 9 号墳	〃 〃 〃	円 12	馬具	直刀, 鉄鏃, 金環	
200	新井原 11 号墳	〃 〃 〃	円 15	(伝) 馬具	(伝) 鉄鏃	
201	新井原 4 号土 墳	〃 〃 〃		f 字形鏡板付轡, 杏 葉 2, 飾り鉾 12		5 後
202	平地 9 号墳	〃 〃 平地	円	馬具	鉄鏃, 金環	

長野県の馬具副葬古墳について——科野古代馬匹文化研究のための一作業——

203	平地10号墳	飯田市座光寺平地	円	雲珠, 鉸具, 鎖	劍, 直刀, 刀子, 鞆金具, 金環	
204	平地11号墳	〃 〃 〃	円	鉸具	直刀, 鉄鏃, 金環	
205	石塚3号墳	〃 〃 石塚	円8	馬具 ⁰¹	鐙	
206	井下横古墳	〃 〃 原	円18	馬具	直刀, 耳環	
207	北本城古墳	〃 〃	前方後方	壺鑑, 兵庫鎖	直刀, 鉄鏃, 埴輪 (円筒形象)	
208	上溝1号墳	〃 松尾上溝		轡, 杏葉, 鉸具, 飾金具	刀子, 鉄鏃, 白玉	7前
209	上溝3号墳	〃 〃 〃	円	雲珠, 鉸具	鉄鏃, 玉類, 金環	7初
210	代田1号墳	〃 〃 代田	前方後円	(伝) 鈴, 馬鈴	(伝) 刀劍, 玉類, 円筒埴輪	
211	古城古墳	〃 〃 片羽		環鈴	直刀, 玉類	
212	水城1号墳	〃 松尾水佐城		馬具	直刀, 矛	
213	張原古墳	〃 〃 毛賀上毛賀	円	(伝) 馬具		
214	下毛賀5号墳	〃 〃 〃 下毛賀	円19	杏葉, 鈴, 金具	直刀, 勾玉	
215	寺前古墳	〃 駄科寺前	円	(伝) 馬具	(伝) 玉類	
216	丸塚古墳	〃 〃 張原		鈴	鏡, 刀劍, 玉類	
217	御所山古墳	〃 〃 御所山	円14	轡	直刀, 玉類, 銀環, 紡錘車	
218	神送塚古墳	〃 〃	円	引手	鏡, 劍, 直刀, 鉄鏃, 鎌短甲	
219	中井田1号墳	〃 長野原中井田西	円18	轡	直刀, 玉類, 人物埴輪	
220	久保尻2号墳	〃 桐林久保尻	円	轡	甲	
221	前の原6号墳	〃 〃 前の原	円11	轡, 飾金具	玉類, 金環	
222	庵ノ塚古墳	〃 〃 庵ノ塚	円	鏡板, 鎖	直刀, 鉄鏃, 玉類	
223	下原2号墳	〃 〃 下原	円	馬具	直刀, 耳環	
224	塚原2号墳	〃 〃 塚原	円31	鏡板	劍, 刀子, 鉄鏃, 玉類	
225	塚原5号墳	〃 〃 〃	円58	馬鐙	鏡, 直刀, 鍍金短甲	
226	中原2号墳	〃 〃 中原	円	轡	直刀	
227	金山1号墳	〃 上川路金山		轡, 虎頭鈴, 環鈴	直刀, 玉類	6前
228	御猿堂古墳	〃 〃 上の坊	前方後円66	轡, 杏葉, 雲珠, 辻金具, 留金具	鏡3, 劍, 直刀, 環頭柄頭, 鉄鏃, 桂甲小札, 玉類, 埴輪 (円筒・形象)	6前
229	権現3号墳	〃 〃 権現	円18	鈴付鏡板	鏡, 直刀, 鉄鏃, 短甲埴輪 (円筒・形象)	
230	久保田1号墳	〃 川路久保田	前方後円	轡, 杏葉, 雲珠, 辻金具, 鉸具, 鉸具付吊金具, 留金具	矛, 石突, 玉類	6前

231	辻垣外 1 号墳	飯田市伊豆辻垣外	円	銅製虎頭鈴		
232	御射山原 1 号墳	〃 〃 御射山原	円11	馬具	直刀, 鉄鏃, 金環	
233	月の木 1 号墳	〃 〃 月の木	円10	轡	直刀	
234	月の木 3 号墳	〃 〃 〃	円	轡		
235	花御所 1 号墳	〃 〃 花御所	円21	轡, 杏葉, 雲珠, 鈴	玉類, 耳環	
236	花御所 6 号墳	〃 川路花御所	円	馬具	直刀	
237	向田古墳	〃 伊豆木向田	円?	轡, 杏葉, 辻金具	管玉	
238	宮釣根 3 号墳	〃 〃 木宮釣根	円13	馬具	直刀, 刀子, 玉類, 耳環	
239	塚山古墳	〃 〃	円16	馬具	鉄鏃, 耳環, 円筒埴輪	
240	矢平 1 号墳	〃 〃	円	馬具	剣, 直刀, 鉄鏃, 玉類, 金環	
241	もりの塚古墳	〃 山本竹佐	円15	(伝) 馬具	甲, (伝) 刀剣	
242	宮ノ原古墳	〃 中宮宮原	円	轡	直刀, 刀子, 管玉, 金環	

※54鳥羽山洞窟遺跡と201新井原 4 号土墳は古墳ではないが、古墳時代馬具を出土しているので加えた。